

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・観察、実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かすことのできる力	・問題を見いだす力や予想、仮説を発想し、実験結果から考察する力

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<p>ア観察・実験用具の正しい使い方を身に付けている段階である。</p> <p>イ問題を見いだす力が不十分である。</p> <p>イ観察や実験の結果から、自分の考えを導き出す力が不十分な児童が多い。</p>	<p>ア観察・実験用具を繰り返し使うことで、正しい使い方を身に付けていくとともに、次の観察・実験でも使おうとする意欲を育てる。</p> <p>イ提示された事象を基に、自ら問題をつくる学習を継続的に行う。</p> <p>イ予想と結果を比較したり、友達の考えを参考にしたりしながら自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p> <p>イ通年</p>	
第4学年	<p>ア観察、実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かすことに課題がある。</p> <p>イ問題を見いだす力や予想、仮説を発想する力に個人差がある。</p>	<p>ア観察・実験用具を繰り返し使うことで、正しい使い方を身に付けていくとともに、次の観察・実験に生かしていこうとする意欲を育てる。</p> <p>イ提示された事象を基に、自ら問題をつくらうとする意欲を大切にしながら授業を展開していく。</p> <p>イ予想と結果を比較したり、友達の考えと比較したり、参考にしたりしながら自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p> <p>イ通年</p>	
第5学年	<p>ア観察・実験に関する基本的な知識、技能を学習や生活に生かすできていない。</p> <p>イ実験やビデオの視聴を通して、理解は深まっているが、分かったことや考えなどをノートなどに記述することが十分にできていない。</p>	<p>ア児童が進んで観察や実験を行うことができるように、児童の問題意識から課題を設定していく指導を繰り返す。</p> <p>イノートの点検・回収を随時行い、個別にノート指導を行う。また、手本となる児童のノートを見せて、まとめ方や振り返り方などを参考にできるように指導する。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p>	
第6学年	<p>ア観察や実験の基本的な知識や技能を身に付けることや、他教科の学習や自分たちの生活に生かすことは、できていない。</p> <p>イ予想や仮説を立て、実験の結果をまとめることはできるが、実験結果から考察することができる児童とそうでない児童がいる。</p>	<p>ア既習事項を振り返り、関連する生活場面を取り上げたり、他教科と関連付けたりして授業を展開する。</p> <p>イ考察する際、捉えたい視点やポイントを提示する。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

3年

写真や動画機能を用いて記録することで効果的に情報収集を行ったり、調べ学習をしたりする。【重点:個別】

4年

予想を立てたり、考察したりする際、タブレット端末を利用し、友達の考えを参考にできるようにする。またプロジェクターで投影し、全体共有を行う。【重点:協働】

5年

観察や実験結果の記録方法を個に応じて考えさせ、他者の意見を参照もする中で記録を共有することで学習の広がりをもたせる。【重点:協働】

6年

学習課題に対して、自分に合った学習方法を選び、学習に取り組ませる。全体で共有する際は、ICT 機器を活用し、多様な考えに触れさせる。【重点:協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

3年

実験や観察の結果から、分かったことや考えたことをまとめる時間を十分にとる。

4年

既習事項や生活体験と関連付けて考えるために、既習事項を想起させるような発問をする。

5年

問題を意識した一連の問題解決学習を重視することで、見通しをもち結論を導きだす力を育成する。

6年

一人一人の考察を関係付けながら、全体で結論を導き出せるようにする。